

浮世絵お化け屋敷

前期: 2024年8月3日(土)~9月1日(日) 後期: 9月6日(金)~9月29日(日)

- ※ 前期と後期で全点展示替えをおこないます。塗りつぶし部分が各作品の展示期間となります。① 前期 ② 後期
- ※ 記載してあるもの以外、太田記念美術館所蔵です。
- ※ リストの番号は展覧会ブックレットの番号と一致しています。作品の展示順とは一致しません。予めご了承下さい。
- ※ 展示スケジュールは、作品の状態、その他やむを得ぬ事情により、変更されることがあります。

太田記念美術館

	絵師名	作品名	所蔵	年代	①	②
1	歌川国芳	相馬の古内裏	個人蔵	弘化2~3年(1845~46)		
2	落合芳幾	今様擬源氏 十五 蓬生 大宅太郎光国	個人蔵	元治元年(1864)3月		
3	月岡芳年	和漢百物語 大宅太郎光圀		慶応元年(1865)9月		
4	歌川芳員	將軍太郎良門墓ノ術ヲ以テ相馬の内裏を躰シ亡父の栄花を見せ父のあだをほふぜんと士卒をはけまし軍評定の図		嘉永5年(1852)3月		
5	豊原国周	相馬良門古寺之図		安政5年(1858)8月		
6	梅堂小国政	相馬旧御所		明治26年(1893)8月		
7	歌川貞秀	源頼光館土蜘蛛妖怪図	個人蔵	天保(1830~44)頃		
8	歌川国芳	本朝三勇士	個人蔵	嘉永5年(1852)6月		
9	月岡芳年	和漢百物語 不破伴作		慶応元年(1865)8月		
10	月岡芳年	美勇水滸伝 高木午之助		慶応2年(1866)10月		
11	歌川国芳	五十三駅 岡崎		弘化4年(1847)頃		
12	歌川国芳	日本駄右エ門猫之古事		弘化4年(1847)		
13	歌川国貞 (三代豊国)	東駅いろは日記		文久元年(1861)7月		
14	月岡芳年	和漢百物語 登喜大四郎		慶応元年(1865)2月		
15	月岡芳年	新形三十六怪撰 蒲生貞秀臣土岐元貞甲州猪鼻山魔王投倒図		明治23年(1890)1月		
16	歌川国芳	浅茅原一ツ家之図		安政2年(1855)2月		
17	歌川国芳	風流人形の内 一ツ家の図 祐天上人		安政3年(1856)3月		
18	月岡芳年	一魁随筆 一ツ家老婆		明治5年(1872)11月		
19	月岡芳年	奥州安達がはらひとつ家の図		明治18年(1885)9月		
20	歌川国芳	四代目市川小団次の於岩ぼうこん		弘化3~嘉永元年(1846~48)		
21	歌川国芳	木曾街道六十九次之内 追分 おいは 宅悦		嘉永5年(1852)6月		
22	歌川国芳	当三升四谷聞書		嘉永元年(1848)9月		
23	歌川国貞 (三代豊国)	東海道四谷怪談		文久元年(1861)7月		
24	豊原国周	形見草四谷怪談		明治17年(1884)10月		
25	落合芳幾	百もの語 四ツ谷 八		明治23年(1890)8月		
26	月岡芳年	新形三十六怪撰 四ツ谷怪談		明治25年(1892)		
27	歌川国芳	木曾街道六十九次之内 鶺沼 与右工門 女房累		嘉永5年(1852)7月		
28	歌川国貞 (三代豊国)	見立三十六歌撰之内 藤原敏行朝臣 累の亡魂		嘉永5年(1852)9月		
29	歌川国貞 (三代豊国)	怪談木幡小平次		嘉永6年(1853)8月		
30	歌川国貞 (三代豊国)	小幡怪異雨古沼		安政6年(1859)6月		
31	落合芳幾	百もの語 小幡小平治 十		明治23年(1890)8月		
32	歌川国貞 (三代豊国)	実成金菊月		嘉永3年(1850)9月		
33	歌川国貞 (三代豊国)	実成金菊月		嘉永3年(1850)9月		
34	歌川国貞 (三代豊国)	踊形容外題づくし 実成金菊月 浅山邸の場		安政4年(1857)1月		
35	月岡芳年	新形三十六怪撰 皿やしき於菊の霊		明治23年(1890)8月		
36	歌川国芳	東山桜荘子		嘉永4年(1851)8月		
37	歌川国芳	四代目市川小団次の浅倉当吾亡霊	個人蔵	嘉永4年(1851)8月		
38	歌川国芳	木曾街道六十九次之内 細久手 堀越大領		嘉永5年(1852)7月		
39	月岡芳年	和漢奇談鑑 佐倉宗吾 酒呑童子		明治13年(1880)		

40	歌川国芳	名高手毬諷実録		安政2年(1855)7月	
41	月岡芳年	近世俠義伝 生首六蔵		慶応2年(1866)2月	
42	月岡芳年	魁題百撰相 金吾中納言秀秋		慶応4～明治2年(1868～69)	
43	月岡芳年	郵便 報知新聞 第六百十四号		明治8年(1875)4月	
44	歌川芳房	清盛布引滝遊覧義平靈難波討図		安政3年(1856)2月	
45	月岡芳年	新形三十六怪撰 布引滝悪源太義平靈討難波次郎		明治22年(1889)12月	
46	葛飾北為	福原殿舎怪異之図		天保14～弘化3年(1843～46)	
47	月岡芳年	新形三十六怪撰 清盛福原に数百の人頭を見る図		明治23年(1890)9月	
48	歌川国芳	摂州大物の浦よしつねしうじう難風に出合て平家のぼうれい御船を覆 さんとする図	個人蔵	天保14～弘化3年(1843～46)	
49	歌川国芳	大物浦平家の亡霊	個人蔵	嘉永2～4年(1849～51)	
50	歌川国芳	程義経恋源一代鏡 三略伝 大物のうらによし経主従難風にあひたま ふ		嘉永6年(1853)1月	
51	歌川貞秀	大物の浦岡像の図		弘化元～3年(1844～46)	
52	歌川芳員	大物浦難風之図		万延元年(1860)6月	
53	月岡芳年	和漢豪気揃 平知盛		明治元年(1868)4月	
54	月岡芳年	新形三十六怪撰 大物之浦二霊平知盛海上二出現之図		明治24年(1891)	
55	歌川芳員	新田義興の霊怒て讐を報ふ図		嘉永5年(1852)閏2月	
56	月岡芳年	大日本名将鑑 大將軍田道の霊		明治13年(1880)2月	
57	月岡芳年	西郷隆盛霊幽冥奉書		明治11年(1878)7月	
58	歌川国芳	東海道五十三対 日坂		天保14～弘化3年(1843～46)	
59	歌川国貞 (三代豊国)	東海道五十三対 宮の駅 反魂塚		天保14～弘化3年(1843～46)	
60	月岡芳年	和漢百物語 藤原仲成霊 伊賀局		慶応元年(1865)9月	
61	楊洲周延	東絵昼夜競 伊賀の局		明治19年(1886) 1月	
62	月岡芳年	和漢百物語 下部筆助		慶応元年(1865)9月	
63	月岡芳年	英名二十八衆句 姐妃の於百		慶応2年(1866)12月	
64	月岡芳年	日蓮上人石和河にて鶴飼の迷魂を濟度したまふ図		明治18年(1885)	
65	月岡芳年	新形三十六怪撰 さぎむすめ		明治22年(1889)4月	
66	月岡芳年	新形三十六怪撰 清玄の霊桜姫を慕ふ乃図		明治22年(1889)5月	
67	月岡芳年	新形三十六怪撰 ほたむとうろう		明治24年(1891)	
68	落合芳幾	東京日々新聞 百一号		明治7年(1874)9月	
69	月岡芳年	郵便 報知新聞 第六百五十一号		明治8年(1875)	
70	落合芳幾	百もの語 魂魄 十一		明治23年(1890)8月	
71	歌川国芳	東海道五十三対 土山		天保14～弘化3年(1843～46)	
72	月岡芳年	和漢百物語 貞信公		慶応元年(1865)6月	
73	月岡芳年	新形三十六怪撰 貞信公夜宮中に怪を懼しむの図		明治22年(1889)4月	
74	歌川国芳	本朝武者鏡 渡辺綱		安政2年(1855)4月	
75	月岡芳年	羅城門渡辺綱鬼腕斬之図		明治21年(1888)12月	
76	月岡芳年	芳年漫画 渡辺綱と茨木童子		明治18年(1885)12月	
77	月岡芳年	新形三十六怪撰 老婆鬼腕を持去る図		明治22年(1889)4月	
78	月岡芳年	美談武者八景 戸隠の晴嵐		明治元年(1868)正月	
79	月岡芳年	大日本名将鑑 平惟茂		明治12年(1879)	
80	月岡芳年	平維茂戸隠山鬼女退治之図		明治20年(1887)11月	
81	月岡芳年	新形三十六怪撰 為朝の武威痘鬼神を退く図		明治23年(1890)10月	
82	歌川国貞	大森彦七盛長		文政後期～天保初期(1824～31)頃	
83	月岡芳年	新形三十六怪撰 大森彦七道に怪異に逢ふ図		明治22年(1889)5月	
84	月岡芳年	和漢奇談鑑 嵯峨大領 曾呂利新左衛門		明治13年(1880)11月	
85	落合芳幾	百もの語 笑はんにや 四		明治23年(1890)8月	

86	豊原国周	水滸伝地獄廻り		元治元年(1864)3月	
87	重丸	鬼娘退治		慶応3年(1867)2月	
88	武田幾丸	鬼の一口ばなし		慶応3年(1867)2月	
89	葛飾北斎	『北斎漫画』三編		文化12年(1815)4月	
90	一寸子花里	商内道具集之内 桐油御合羽品々		天保14~弘化3年(1843~46)	
91	歌川国貞(三代豊国)	大日本六十余州之内 上総 白藤源太		天保14~弘化3年(1843~46)	
92	歌川国芳	狂画絵手本 二		安政6年(1859)5月	
93	歌川広景	江戸名所道戯尽 二 両国の夕立		安政6年(1859)正月	
94	歌川広景	江戸名所道外尽 廿四 数奇屋かし		安政6年(1859)8月	
95	月岡芳年	和漢百物語 白藤源太		慶応元年(1865)2月	
96	月岡芳年	東京開化狂画名所 柳橋 書画会画工の狼藉 深川木場 川童臭氣に辟易		明治14年(1881)1月	
97	月岡芳年	和漢奇談鑑 大森彦七寅正 毛谷村六助		明治13年(1880)	
98	二代勝川春章	源義仲四天王ともに木曾の奥山に天狗を退治す		天保3~13年(1832~42)頃	
99	歌川国芳	牛若鞍馬修行図		安政5年(1858)4月	
100	歌川国芳	木曾街道六十九次之内 板鼻 御曹子牛若丸		嘉永5年(1852)5月	
101	水野年方	源平雪月花之内 月		明治18年(1885)頃	
102	歌川国芳	平家の驕奢悪逆を憎み鞍馬山の僧正坊を始め諸山の八天狗御曹子牛若丸の影身に添ひ源家再興を企るに随従の英雄を伏さしむる図		弘化4~嘉永3年(1847~50)	
103	月岡芳年	和漢百物語 宮本無三四		慶応元年(1865)8月	
104	月岡芳年	新形三十六怪撰 小早川隆景彦山ノ天狗問答之図		明治25年(1892)	
105	歌川国芳	源頼光公館土蜘蛛妖怪図		天保13~14年(1842~43)	
106	歌川貞秀	源頼光を悩ませる土蜘蛛の妖怪		弘化元年(1844)	
107	歌川国芳	源頼光の四天王土蜘蛛退治之図		天保(1830~44)頃	
108	歌川芳艶	丹波国山中は数千年越し蜘蛛あまたの人なやますと聞源頼光四天王お召つれ遂にたいししたまふ図		弘化4~嘉永元年(1847~48)	
109	歌川国芳	和漢準源氏 源頼光 薄曇		安政2年(1855)9月	
110	月岡芳年	新形三十六怪撰 源頼光土蜘蛛ヲ切ル図		明治25年(1892)	
111	月岡芳年	美勇水滸伝 黒雲皇子 將軍太郎平良門		慶応3年(1867)4月	
112	歌川国芳	三国妖狐図会 蘇姐己駅堂に被魅		嘉永2~3年(1849~50)	
113	月岡芳年	和漢百物語 華陽夫人		慶応元年(1865)2月	
114	歌川国芳	三国妖狐図会 華陽夫人老狐の本形を顕し東天に飛去る		嘉永2~5年(1849~52)	
115	歌川国貞(三代豊国)	安倍泰成調伏妖怪図		弘化元~3年(1844~46)	
116	楊洲周延	東絵昼夜競 玉藻前		明治19年(1886)1月	
117	尾形月耕	月耕隨筆 九尾狐		明治26年(1893)	
118	月岡芳年	新形三十六怪撰 奈須野原殺生石之図		明治24年(1891)	
119	歌川国芳	三国妖狐図会 玄翁一喝して悪狐の靈を滅す		嘉永2~5年(1849~52)	
120	歌川国芳	木曾街道六十九次之内 妻籠 安倍保名葛葉狐		嘉永5年(1852)6月	
121	月岡芳年	新形三十六怪撰 葛の葉きつね童子にわかるるの図		明治23年(1890)	
122	月岡芳年	東京開化狂画名所 墨堤三囲社 野狐の愉快 招魂社 馬かけ名人		明治14年(1881)1月	
123	歌川広景	江戸名所道戯尽 十六 王子狐火		安政6年(1859)6月	
124	蒔田俊親	交張絵画 妖狐之図		明治18年(1885)6月	
125	歌川国貞(三代豊国)	源三位頼政 猪ノ早太忠證		嘉永2年(1849)	
126	歌川国芳	木曾街道六十九次之内 京都 鶴 大尾	個人蔵	嘉永5年(1852)10月	
127	月岡芳年	新形三十六怪撰 内裏に猪早太鶴を刺図		明治23年(1890)	
128	月岡芳年	和漢百物語 楠多門丸正行		慶応元年(1865)3月	
129	楊洲周延	東絵昼夜競 楠正行		明治19年(1886)1月	
130	月岡芳年	新形三十六怪撰 武田勝千代月夜に老狸を撃の図		明治22年(1889)4月	

131	歌川国芳	誠忠義臣名々鏡 岡田孫太夫豊成		安政4年(1857)3月		
132	月岡芳年	新形三十六怪撰 茂林寺の文福茶釜		明治25年(1892)		
133	落合芳幾	太平記英勇伝 四十 嶋左近友之		慶応3年(1867)1月		
134	月岡芳年	和漢百物語 小野川喜三郎		慶応元年(1865)9月		
135	歌川国芳	源氏雲浮世画合 玉葛 玉取蟻		天保14~弘化3年(1843~46)		
136	歌川国芳	狂画絵手本 一		安政6年(1859)5月		
137	月岡芳年	東京開化狂画名所 日本橋魚市場 大蛸の乱暴 神田明神 写真師の勉強		明治14年(1881)1月		
138	落合芳幾	東京日々新聞 六百九十七号		明治7年(1874)5月		
139	歌川芳虎	越中立山の地獄谷に肉芝道人蛙合戦の奇をあらはし良門伊賀寿の両雄に妖術を授く		嘉永5年(1852)4月		
140	月岡芳年	美勇水滸伝 宮本武蔵政名 大原武二郎武松		慶応3年(1867)4月		
141	歌川国芳	百人一首之内 大納言経信		天保後期(1836~44)頃		
142	歌川国芳	東海道五十三対 桑名 船のり徳蔵の伝		天保14~弘化3年(1843~46)		
143	作者不詳	進雄尊悪神退治		慶応4年(1868)頃		
144	勝川春亭	鎌田又八		文化後期(1811~18)頃		
145	月岡芳年	新形三十六怪撰 三井寺頼豪阿闍梨悪念鼠と変ずる図		明治24年(1891)		
146	月岡芳年	和漢百物語 田原藤太秀郷 瀬田之竜女		慶応元年(1865)2月		
147	月岡芳年	郵便 報知新聞 第六百六十三号		明治8年(1875)8月		
148	月岡芳年	岩見重太郎兼亮の狒々退治		慶応元年(1865)6月		
149	月岡芳年	於吹鳥之館直之古狸退治図		慶応2年(1866)10月		
150	月岡芳年	百器夜行		慶応元年(1865)9月		
151	玉園	画本西遊記 百鬼夜行ノ図		文久~慶応(1861~68)頃		
152	歌川芳藤	髪切の奇談		明治元年(1868)閏4月		
153	歌川芳員	百種怪談妖物双六		安政5年(1858)9月		
154	小林幾英	しん板かげゑづくし		明治14年(1881)5月		
155	作者不詳	海出人之図		嘉永2年(1849)頃		
156	月岡芳年	正清朝臣焼山越二而志村政蔵山姥生捕図		慶応元年(1865)10月		
157	月岡芳年	和漢百物語 主馬介卜部季武		慶応元年(1865)2月		
158	月岡芳年	和漢百物語 清姫		慶応元年(1865)9月		
159	月岡芳年	新形三十六怪撰 清姫日高川に蛇躰と成る図		明治23年(1890)1月		
160	月岡芳年	不知藪八幡之実怪		明治14年(1881)		
161	月岡芳年	芳年存画		明治17年(1884)		
162	三代歌川国輝	本所七不思議之内 狸囃子		明治19年(1886)4月		
163	三代歌川国輝	本所七不思議之内 足洗邸		明治19年(1886)4月		
164	三代歌川国輝	本所七不思議之内 送撃折		明治19年(1886)4月		
165	三代歌川国輝	本所七不思議之内 無燈蕎麦		明治19年(1886)4月		
166	三代歌川国輝	本所七不思議之内 片葉ノ芦		明治19年(1886)4月		
167	三代歌川国輝	本所七不思議之内 置行堀		明治19年(1886)4月		
168	三代歌川国輝	本所七不思議之内 送り提燈		明治19年(1886)4月		
169	歌川芳員	東海道五十三次内 府中 まりこへーり十六丁		嘉永2~5年(1849~52)		
170	歌川広重	東海道五十三対 二川		天保14~弘化3年(1843~46)		
171	落合芳幾	東海道中栗毛弥次馬 水口 石部		万延元年(1860)10月		
172	月岡芳年	郵便 報知新聞 第五百八十九号		明治8年(1875)4月		
173	月岡芳年	和漢百物語 頓欲ノ婆々		慶応元年(1865)9月		
174	月岡芳年	新形三十六怪撰 おもゐつづら	個人蔵	明治25年(1892)		